



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### ①実践の概要

1年…生活科など教科とのかかわりの中で実践

2年…生活科など教科とのかかわりの中で実践

3年…総合的な学習の時間で実践

「命をはぐくむ大川～鮭のふ化を調べよう～」

- ・ 鮭の生態・大川の特徴についての講話を聞く
- ・ 鮭の受精, 孵化, 飼育, 放流の体験活動

「気仙沼を安全な町に～災害に備えて～」

- ・ 災害について調べる
- ・ 少年防災クラブに入会体験活動を行う

4年…総合的な学習の時間で実践

「大川のめぐみ～源流を訪れよう～」

森(山)と川や海のつながりを探る

- ・ 「大川桜並木保存会」の方と交流する
- ・ 歴史や今後の計画についての講話

「防災マップを作ろう」

- ・ 通学路を調査し, 自分たちの地区の防災マップを作る
- ・ ポスターなどにまとめ, 防災マップ活用を働きかける

5年…総合的な学習の時間で実践

「野外へ出かけよう」

- ・ 山麓の様子を体験し, 自然観察を行う
- ・ 登山やブナ林散策などを通して実際に体験する

「見つめよう気仙沼の水産業」

- ・ 水産業者見学, 講話
- ・ 漁食推進事業と連携し, 調理実習を行い気仙沼の魚介類を味わう

6年…総合的な学習の時間で実践

「オリジナル気仙沼弁当を作ろう」

- ・ 食材の復興状況を聞き取り調査する
- ・ ゲストティーチャーから調理方法を学ぶ
- ・ 食材を集めてオリジナル気仙沼弁当を作る

「わたしたちのまち未来の気仙沼」

- ・ 気仙沼の復興イベントを調べる
- ・ 復興商店街に見学に行き, その様子や人々の願いを知る
- ・ 「ひと・こと・もの」を視点とした未来設計図をつくり発表する

#### ②実践の成果

1年…2年生から昨年栽培したアサガオの種を引き継ぎ栽培した。アサガオでたたき染めの作品づくりも行うことができた。また, 秋の昆虫を飼育することで, 小さな生き物の命を身近に感じることができた。

2年…「町たんけん」では見学・インタビューを行い, 身近な地域をよく知ることができた。各訪問先では体験活動を行うことができた

3年…身近な河川である大川と, 大川の鮭の遡上について調べ活動を行った。ゲストティーチャーに講話をいただくと共に教室で鮭を孵化させ放流を行った

4年…学区内の防災マップづくりに取り組み, 下学年に向けて発表した。保護者によるボランテ

- ィアと共に学区内散策をしながら危険箇所を確認した。
- 5年…秋鮭料理教室を開催し、地域の水産業への興味と理解を深めた。高齢者疑似体験を行うと共に高齢者との交流会を行い理解を深めた。
- 6年…気仙沼の食材（地域の魅力）を調べ、未来まで守り続けたい食材を「オリジナル気仙沼弁当」づくりへと発展させて取り組んだ。理科（海峡教育）とも結びつけて学習を進めた。

## （２）１年間を振り返っての成果と課題

### ねらい・目的の視点から

#### ①成果

- ・自分たちの身近な地域との触れ合いから課題を発見し、より広い地域へと目を向けて解決していく方向性は児童の発達段階が踏まえられており、段階を踏んだ学習とすることができた。

#### ②課題

- ・地域の環境、地方の環境、地球環境と視野を広げていくと最終的に児童の学習はオープンエンドにならざるを得ない。異なる結論に対する教師の対応が、確かな知識に基づいたものになるよう、ニュートラルなものの考え方ができる研修が各自必要になってくる。

### カリキュラム・マネジメント（指導計画・内容・方法、連携・交流等）の視点から

#### ①成果

- ・各学年の取組においてそれぞれが外部団体（各ステークホルダー）と連携を取り合っけてカリキュラムをつくり、充実した活動にすることができた。

#### ②課題

- ・アクティブラーニングを重視して展開することにより、各ステークホルダーと連携して進める学習場面が学期末に集中してしまいがちになり、活動が慌ただしくなりがちであった。

### アクティブラーニング（主体的・探求的・協動的な学習）の視点から

#### ①成果

- ・児童は自分たちの身近な事柄から学習課題を発見し、少人数グループで課題解決学習を進めることができた。
- ・課題解決のためには様々な教科の知識が必要になることを児童が実感していた。各教科の必要性を再認識する機会となっていた。

#### ②課題

- ・取り組む課題によっては理解により高い知識が必要となるものもあり、教師による、より丁寧なサポートが必要となることもあった。

### 評価（育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等）の視点から

#### ①成果

- ・地域の環境について学習を進めることで、社会で取り上げられている問題は、自分たちの身近で起きていることと関係していることに気づき、実感をもった学習にすることができた。

#### ②課題

- ・環境問題に関しては行動・参加の方向性のあり方が一つとは限らない。学習を進めながら児童の考え方に寄り添い評価していく必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）